

政務活動費調査研究報告書

会派名 市民の会

氏名 大塚正俊

日 程	令和8年2月6日（金）午前9時30分から11時
場 所	長崎県雲仙市役所
相 手 方	総務部政策企画課 課長 町田 修一、 政策企画班 課長補佐 林田 慎也、参事補 町田 義博
参加議員氏名	千木良 孝之、大塚 正俊、木佐貫 佳子
用 務	地域公共交通の取り組みについて
内 容	<p>1. 市の概要</p> <p>雲仙市は、長崎県の島原半島西部に位置し、人口 38,481 人、行政面積 214.29 km²の市です。</p> <p>2005年（平成17年）10月11日、7町（国見町・瑞穂町・吾妻町・愛野町・千々石町・小浜町・南串山町）が新設合併して市制を施行、雲仙市が発足しました。</p> <p>国政調査人口は合併時 49,998 人から令和2年は 41,096 人に減少し、令和7年住民基本台帳人口は 38,481 人と、合併後20年間で 11,517 人（23%）減少しています。</p> <p>2. 地域公共交通の取り組み</p> <p>(1) チョイソコうんぜんの運行</p> <p>2020年（令和2年）10月から「国見・瑞穂」「吾妻・愛野」の2エリアで実証実験として運行を開始し、2022年（令和4年）7月から「千々石・小浜（一部）」「小浜（一部）・南串山」の2エリアを加え、市内全域での運行となりました。</p> <p>2023年（令和5年）1月からは、雲仙市乗合タクシーの機能を統合する予約不要の定時定路線運行便を設定。理由は、廃止された路線バスの代替措置が必要であり、チョイソコの運行時間帯（9時から17時）では通勤、通学に利用できないため。路線は、旧雲仙市乗合タクシーの2路線のうち山領線を</p>

上岳線に統合し、上岳線の一部便を山領経由としました。運賃については、新たに通学定期券を設定した他、通学の小学生の運賃は半額（100円）「国見・瑞穂」エリアには、スクールバスが運行されていますが、教育委員会との調整やチョイソコの運行時間の検討はこれからとなっています。

「チョイソコうんぜん」は、あらかじめ会員登録した利用者からの電話予約に基づき、AIが最適な乗り合わせと経路を算出して運行する乗合送迎サービスです。

- ・地域の公民館やごみ収集ステーション、スポンサー契約した病院や店舗などを停留所とし、停留所相互間で利用します。
- ・市内全域を4つのエリアに区分（「国見・瑞穂」「吾妻・愛野」「千々石・小浜（一部）」「小浜（一部）・南串山」）してエリア別に運行し、隣接エリアには指定乗換地点で乗り換えます。
- ・運行日は月曜日から土曜日、時間は9時から17時の間
- ・運賃は1乗車につき200円（現在300円に引上げるためのパブリックコメントを実施中）
- ・他のエリアへの乗換ごとに追加料金200円（指定乗換地点での待ち時間が課題となっている。）
- ・予約は専用の予約センター（五島市、雲仙市、南島原市の共同設置）に電話で申し込み
- ・運行は市内の旅客自動車運送事業者（タクシー9事業者）がローテーションで行い、乗客定員6名のワゴンタクシー（ノア）を各エリアに1台ずつ運行しています。（故障時は、事業者のタクシーを利用）
- ・運賃はタクシー事業者の収入
- ・車両は市がリース契約
- ・自家用有償旅客運送ではなく、市が事業主体となりタクシー事業者に運行委託する旅客自動車運送で運営

（2）利用者数と登録者数の推移

- ・本格運行開始（R4.7～）以降、利用者数（月別予約件数）は概ね増加傾向で堅調に推移。人口減少が顕著なエリア4（小浜南部、南串山）においても、想定を超える方が利用している。
- ・会員登録者数も同様に3,200名近くの方が登録済であるが、リピーターが多く利用されている一方、登録者の利用割合としては4割程度となっている。

（3）チョイソコ運行にかかる経費（R6年度）

- ①市負担額 34,075,690円（1台当たり8,519,000円）×4台
 - ・収入 12,692,900円
 - 運賃収入 3,155,900円、スポンサー収入 9,540,000円
 - ・支出 46,771,590円

	<p>運行経費 37,700,967 円、車両経費 5,285,555 円、 システム利用料 2,881,725 円、事務費 903,342 円</p> <p>②市負担額に対する補助等 国、県の補助制度はなく、過疎債ソフトを活用</p> <p>③タクシー事業者の運行委託料（約 3,000 万円/年間）の積算方法 =2,860 円／hr・台×9 hr（実働 8hr、前後点検 1hr）×290 日×4 台</p> <p>(4) 協賛スポンサーの募集</p> <p>スポンサーは、高齢者・障がい者をはじめとして市民の健康増進及び外出支援を目的とした本事業に賛同し、停留所（住宅地停留所および外出目的先となる事業者停留所）の設置に協賛金を負担していただける法人（個人事業者）、協会（組）、グループ（個人）が対象となります。</p> <p>②特典 スポンサー料金（月額 5 千円～8 万円）に応じて、以下の特典が受けられます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・停留所設置 ・ケーブルテレビ CM 放映（一面広告） ・車両外部での社名の広告（4 両） ・車内へのチラシ設置 <p>③主なメリット</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車を持たない方の送迎手段を安価に確保でき、駐車場設置の必要もなく集客効果が見込めます。（店舗・事業所等に停留所を設置） ・スポンサー料に応じた各種媒体により「地域貢献」の PR や事業・イベント等の紹介ができます。 <p>④令和 6 年度実績 47 社 954 万円</p> <p>(5) チョイソコ運行にかかるバス、タクシー事業者との調整</p> <ul style="list-style-type: none"> ・島原鉄道バスとは、バス停付近にチョイソコ停留所を設置しない。 ・島原鉄道とは、駅舎にチョイソコの停留所を設置。 ・タクシー事業者とは、チョイソコ運行をローテーションで委託すること、タクシー運行に極力影響を与えないことで調整 <p>(6) 運営上の困りごと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の利用者が多いので、予約しているのを忘れて停留所に来ない。 ・指定された停留所以外の場所で待っている。 ・AI が最適な乗り合わせと経路を算出して運行しているが、グーグルマップで認識できない狭い道や一度通ったルートを学習することができないため、経験値を活かした効率的な運行ルートに改善できない。
--	--

成 果

雲仙市の「乗り合い送迎サービス（チョイソコ）」では、約4,678万円の経費で、20,491人の利用者があり、スポンサー契約（954万円）により、市の負担額を軽減しています。

一方、中津市内では、中津・三光・本耶馬渓・耶馬渓・山国の5地域それぞれでコミュニティバス、デマンドタクシーが運行されていますが、令和5年度の年間利用者数は23,789人となっており、1便当たり全体の平均は2.3人となっています。令和6年度当初予算では、7,829万円（コミュニティバス運行事業「6,399万円」、デマンド交通運行事業「1,430万円」）もの経費がかかっています。

空気を運んでいると言われている定時定路線運行便のコミュニティバスは、バス停が遠く、便数が少ないなど利便性が悪いため、早急にデマンド型乗合タクシー（チョイソコなど）に移行すべきと考えます。

デマンド型乗合タクシーの運営に当たって、経費の60%以上を占めるタクシー事業者の運行委託料（約3,000万円/年間）の積算方法がカギになるとを考えます。三光デマンドタクシーのように、通常のタクシー料金を負担する形式では経費が莫大となるため、雲仙市のとおり1時間当たりの単価（雲仙市は2,860円／hr・台）を設定する方式にすべきと考えます。

また、雲仙市は市域を4エリアに分割し、乗継により合計800円で市全域を移動することが可能となっています。バス事業者との調整が難航されますが、市民の利便性向上のために取り組むべきと考えます。

さらなる経費の削減に向けて、スクールバスとの兼用も視野に入れた制度設計が必要と考えます。運行時間を通学・通勤時間帯を含めて運行することで児童・生徒の送迎にも利用可能となり、利用者増につながるものと考えます。

全国的にも協賛スポンサーを募集している自治体は少なく、企業や事業所に停留所設置などの特典を付与するかわりに協賛金を頂く方式を採用すべきと考えます。